

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成20年度病虫害発生予報第1号(5月)について

このことについて、病虫害発生予報第1号を発表したので送付します。

イネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率が高いので注意しましょう!

近年、ヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯病の発生が多くなっています。越冬世代のヒメトビウンカにおけるイネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率検定を実施した結果、本年も6.4%と高い傾向にあります。前年、多発した地域では防除の徹底を指導願います。



ヒメトビウンカ成虫



縞葉枯病発病株



< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

気温は平年より高いでしょう。降水量は少なく、日照時間は多いでしょう。

週別の気温は、1週目、2週目及び3～4週目ともに高いでしょう。

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

(福岡管区気象台 平成20年4月25日発表抜粋)

予報第1号

向こう1か月間の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	前年比
水稲	ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ 縞葉枯病	少 やや少 -	少 やや少 やや多	少 並 並
かんきつ	そうか病 ミカンハダニ	やや少 並	やや少 並	やや少 並
なし	黒星病	並	並	並
ぶどう	黒とう病	やや少	やや少	並
かき	炭そ病 フジコナカイガラムシ	- やや多	やや少 やや多	やや少 やや多
果樹共通	カメムシ類	やや少	-	並
茶	カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	やや少 並 多	並 やや多 多	並 やや少 並

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【普通作物 - 水稲】

普通期水稲

1 ツマグロヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

4月5半旬の片振り20回すくい取り調査の結果（-）

ツマグロヨコバイの越冬量 雑草地 0.1頭（平年：2.0頭、前年：0.8頭）

小麦ほ場 0頭（平年：1.0頭、前年：0.5頭）

(3) 防除上の注意

ツマグロヨコバイを対象とした防除は必要ない。

2 ヒメトビウンカと縞葉枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並（ヒメトビウンカ）

平年よりやや多、前年並（縞葉枯病）

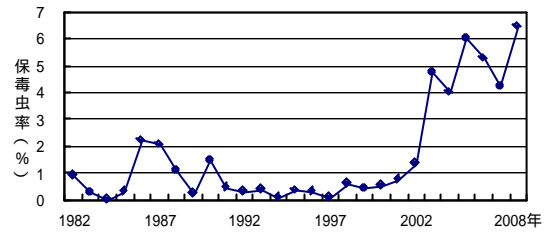
(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の片振り20回すくい取り調査の結果（-）

ヒメトビウンカの越冬量 雑草地 0.1頭（平年：0.6頭、前年：0.8頭）

小麦ほ場 0.6頭（平年：1.8頭、前年：0.4頭）

イ ヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、6.4%（平年：2.8%、前年4.1%）であった（+）。



第1表 越冬世代のヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率

採集地域	保毒虫率 (%)		
	2006年	2007年	2008年
宗像市河東	3.7	3.7	8.0
久留米市太郎原	4.3	3.2	6.4
久留米市田主丸町益生田	12.8	1.6	4.8
朝倉市菱野	6.9	6.4	5.3
筑後市馬間田	3.7	3.7	5.3
大川市北古賀	4.3	1.6	4.8
みやま市山川町北関	5.5	2.1	4.3
八女市上陽町上横山	7.4	2.4	10.6
黒木町木屋	4.8	5.3	3.2
岡垣町黒山	3.7	4.8	6.0
みやこ町勝山大久保	-	10.6	12.2
各地域の平均	5.7	4.1	6.4
平年値			2.8

1)「-」:検定なし 2)検定方法 :エライザ 3)1地点当たり検定虫数:184~188頭

(3) 防除上の注意

- ア イネ縞葉枯病の常発地や保毒虫率が高い地域では、移植前に感染防止効果の高い育苗箱薬剤を選定する。
- イ 育苗圃へのヒメトビウンカの飛び込みを防ぐため、イネ科雑草地や小麦ほ場付近での育苗を避ける。
- ウ 箱施薬剤の処理時には、農薬使用基準（投下薬量）を厳守し、育苗箱全面に散布むらがないように散布する。散布後はイネへのすみやかな吸収を促すため、かん水を行う。
- エ イネ縞葉枯病の発病株を認めたら直ちに除去する。
- オ ほ場外で育苗箱に農薬を散布するときは、育苗箱の下にビニールシート等を敷き地面への薬剤の浸透防止に努める。

【果樹】

1 かんきつそうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査結果(±)

発病葉率 0.1% (平年 0.4%、前年 0.5%)

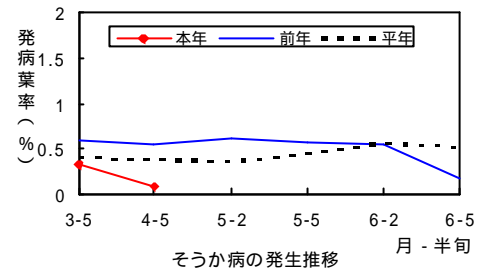
発生ほ場率 7.1% (平年20.6%、前年 47.1%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は少ない(-)。

(3) 防除上の注意

ア 落花直後に灰色かび病、黒点病との同時防除を実施する。

イ 罹病葉は伝染源になるので除去する。



2 かんきつのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

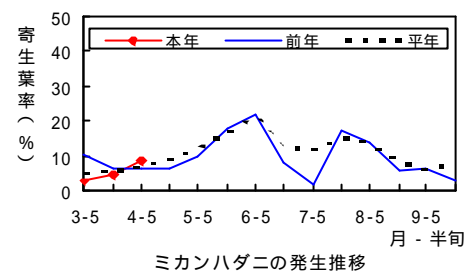
(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査結果(±)

寄生葉率 8.5% (平年 7.3%、前年 6.2%)

発生ほ場率 66.7% (平年 44.3%、前年 52.9%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は少ない(+)



3 なし黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査結果(±)

発病葉率 0.0% (平年 0.2%、前年 0.4%)

発生ほ場率 6.7% (平年 13.7%、前年 35.7%)

イ 主要感染時期である開花期の降水量は平年並みであった(±)。

ウ 4月中下旬の降雨により感染が拡大している可能性がある(+)

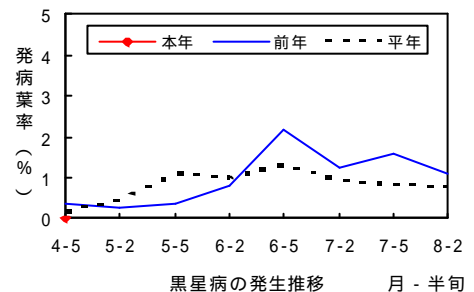
エ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は少ない(-)。

(3) 防除上の注意

ア 罹病葉や罹病果実は伝染源となるので見つけ次第除去、焼却する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用を避ける。

ウ 多発園では、効果の高いジフェノコナゾール水和剤、ヘキサコナゾール水和剤及びフェンブコナゾール水和剤を必ず散布する。



4 ぶどう黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査結果(-)

発病葉率 0% (平年 0.9%、前年 0.1%)

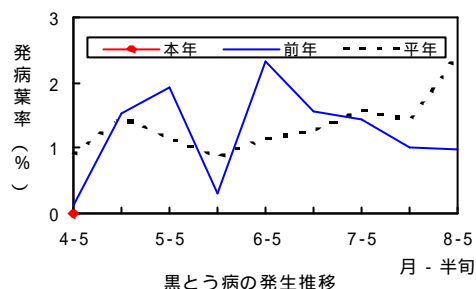
発生ほ場率 0% (平年 15.8%、前年 7.7%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は少ない(-)。

(3) 防除上の注意

ア 罹病葉や罹病新梢は伝染源となるので見つけ次第除去、焼却する。

イ 多発園では、ジチアノン水和剤や有機銅水和剤を必ず散布する。



5 かき炭そ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

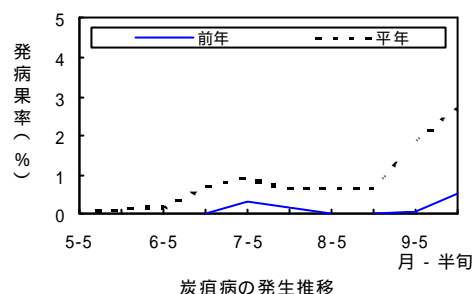
ア 前年10月2半旬の発病果率は0.5% (平年2.7%)、発生ほ場率35.3% (平年66.1%)と平年より少なかった(-)。

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は少ないと予想されている(-)。

(3) 防除上の注意

ア 罹病枝は伝染源となるので見つけ次第除去、焼却する。

イ 多発園では、防除効果の高いマンゼブ水和剤やマンネブ水和剤を必ず散布する。



6 かきのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査結果(+)

寄生枝率 3.6% (平年 2.9%、前年 2.6%)

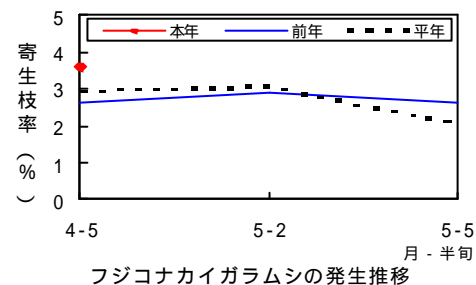
発生ほ場率 73.3% (平年 51.0%、前年 58.8%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は少ない(+)

(3) 防除上の注意

ア 現在、新梢へ移動した越冬幼虫が成虫へ発育中であり、5月上旬にアセタミプリド水溶剤を必ず散布する。

イ 開花前の防除はミツバチに影響の少ない薬剤を散布する。



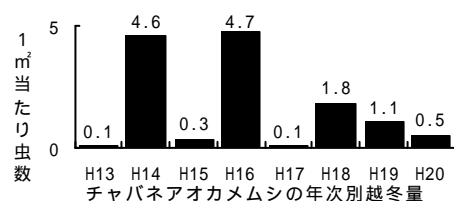
7 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：前年並

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシの1㎡当たりの越冬量は、平均0.5頭 (平年 1.5頭、前年 1.1頭) で平年よりやや少なかった(-)。



イ 4月5半旬までの予察灯への誘殺虫数は次のとおりである(±)。

(調査地点：筑紫野市吉木)

チャバネアオカメムシ 0頭(前年 2頭)

ツヤアオカメムシ 0頭(前年 0頭)

(調査地点：黒木町本分)

チャバネアオカメムシ 1頭(前年 0頭)・・・4月23日に初誘殺

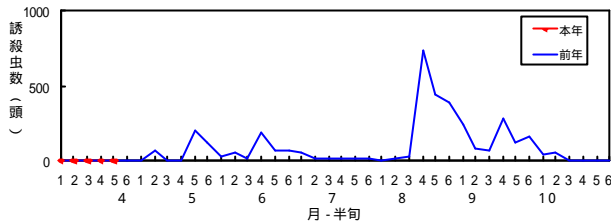
ツヤアオカメムシ 0頭(前年 0頭)

ウ 4月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである(±)。

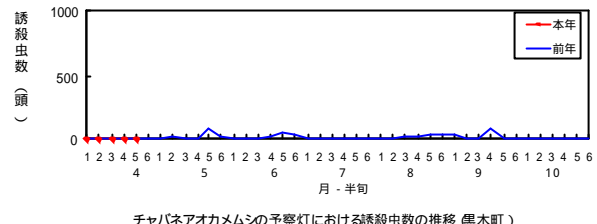
(調査地点：筑紫野市吉木)

チャバネアオカメムシ 17頭(前年 34頭)

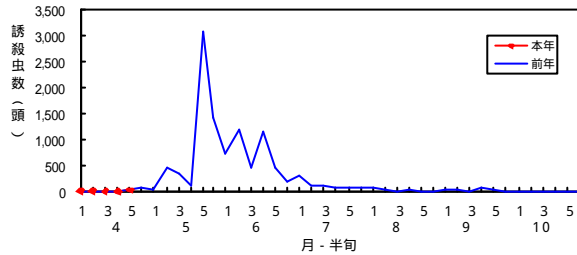
ツヤアオカメムシ 0頭(前年 0頭)



チャバネアオカメムシの予察灯による誘殺虫数の推移(筑紫野市)



チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺虫数の推移(黒木町)



チャバネアオカメムシの集合フェロモンによる誘殺虫数の推移(筑紫野市)

エ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は少ない(+)

(3) 防除上の注意

気温が上昇すると活動が活発となり、ビワ、モモ、ウメ、スモモ等の果樹園への飛来が予想されるので、園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。

【果樹・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ アブラムシ類	やや多	並	並	・ミカンハモグリガやハマキ類との同時防除を行う。 ・発生初期に防除する。
なし アブラムシ類	並	やや少	やや少	・発生初期に防除する。
かき うどんこ病	-	並	並	・炭そ病等との同時防除では、葉の裏側にも薬剤がよくかかるように散布する。

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査結果(-)

寄生葉率 2.8%(平年 3.7%、前年 4.1%)

50葉当たり虫数4.6頭(平年 10.2頭、前年 8.0頭)

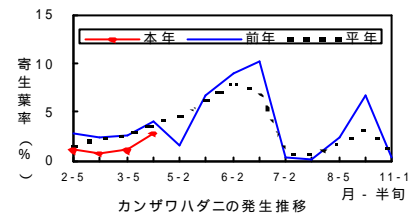
発生ほ場率 52.0%(前年 60.0%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は高く、降水量は少ない(+)。

(3) 防除上の注意

ア 一番茶の摘採後に防除を行う。

イ 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



2 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査結果(±)

たたき落とし虫数 0.1頭(平年 0.1頭、前年 0.2頭)

発生ほ場率 16.0%(前年 36.0%)

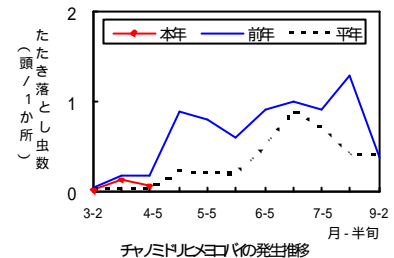
イ 3月5半旬調査で越冬成虫の発生が平年より多い(+)。

ウ 向こう1か月の気象予報は、気温は高く、降水量は少ない(+)。

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A 4 版白紙上)で4頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 一番茶摘採後と二番茶の萌芽から開葉期を中心に防除を行う。



3 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査結果(+)

たたき落とし虫数2.0頭(平年 0.5頭、前年 1.9頭)

発生ほ場率 84.0%(前年 96.0%)

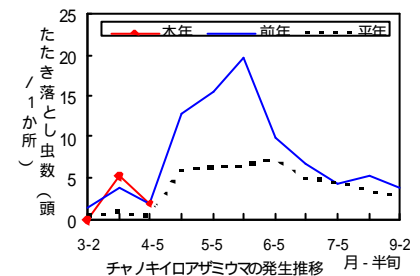
イ 3月5半旬調査で越冬成虫の発生が平年より多い(+)。

ウ 向こう1か月の気象予報は、気温は高く、降水量は少ない(+)。

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A 4 版白紙上)で10頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 一番茶摘採後と二番茶の萌芽から開葉期を中心に防除を行う。



【野菜・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
アスパラガス 斑点性病害	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> ・予防のため、擬葉展開後直ちに薬剤散布を行う。 ・若茎の穂先に発生するので、早期発見に努め、発生初期から防除する。 ・ほ場内や周辺の除草を徹底する。
アザミウマ類	やや少	並	並	
アブラムシ類	やや少	並	並	
ハダニ類	並	並	並	
鱗翅目	並	並	並	

農薬の適正使用、飛散防止対策の徹底を！

全ての農薬の残留基準が農作物毎に設定され基準値を超えた食品（農産物）は販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、ラベルを確認し農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう対策を講ずるとともに注意を払って下さい。

1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数などラベルを確認し使用基準を遵守する。

噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 防除履歴の記帳

薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳する。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka>
 電子メール kfok0301@sp.jpnp.ne.jp